

／ ライフケアサポート情報誌 ／

こもれび

K O M O R E B I

特集

済生会鹿児島地域包括ケアセンター

医療・介護・福祉の連携のもとに



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252

☐ <http://www.saiseikai-kg.jp>

2024

vol.42

新年号



済生会鹿児島地域包括ケアセンターの さらなる深化・推進に向けて

～医療・介護・福祉の連携強化～



済生会鹿児島地域福祉センター所長

吉田 紀子

皆さま 新年あけましておめでとうございます。

今年が皆様にとり一層佳き年でありますようご祈念申し上げます。

今年は新型コロナウイルス感染症のパンデミックから解放されて久しぶりにご家族お揃いで新年をお迎えの方々も多いことと存じます。

2024年の干支は甲辰(きのえたつ)で、成功への芽が成長し、姿を整え飛躍する年、新たなサイクルが始まる年ともいわれています。

世界一の高齢大国であるわが国では、団塊の世代がすべて75歳以上(後期高齢者)になる2025年に向けて、誰もが住み慣れた地域で人生最後まで生活できる地域づくりをめざした地域包括ケアシステム構築が、2014年より進められてきました。

目標年度の2025年までは高齢者の急増期ですが、ポスト2025は既に減り始めている生産年齢人口の急減の時期となり、医療介護分野をささえる人材確保困難のみならず、年金医療介護給付等社会保障を支える生産年齢人口の負担が重くなり、これらにより、わが国の社会保障のあり方は予断を許さぬ厳しい国家的命題となっています。

高齢者の急増と支える世代の急減による課題対応策として、少子化対策を含む全世代型社会保障のしくみの構築のほかに、地域包括ケアシステムの更なる深化推進とあわせて、健康寿命の延伸と高齢者の社会参画等が必須と考えられます。

人口構造の動きをさらに見てみると、2025年までに団塊の世代がすべて75歳以上となり、75歳以上人口は2055年まで増加傾向が続く、特に要介護認定率が急増する85歳以上人口は2035年まで急増し2060年頃まで増加傾向が続くと見込まれています。

高齢期には老化に伴うサルコペニアやフレイル症候群が増加するとともに、75歳以上の約8割が悪性疾患、高血圧、糖尿病、心疾患、脳血管疾患、骨関節疾患、認知症等2つ以上の慢性疾患を有し、85歳以上になると骨折、脳血管疾患や心疾患による要介護状態が急増しています。

さらに疾患は内科的・外科的疾患に加えて眼科・耳鼻科・皮膚科や歯科など複数分野の疾患を併せ持ち、多くの薬剤による副作用も多くみられます。70歳代から増え始める認知症は、85歳では40%、90歳では60%の有病率であるとされ、平均寿命が延びるにつれ認知症も益々増えることが予測されます。

このように複数の各種疾患や認知症を有する高齢者の方々は、医療サービス、介護福祉サービス、生活支援サービスが複合的に必要となります。



従って今後75歳以上・85歳以上人口が増えるということは複数の医療介護福祉ニーズを有する方々が増えるということを意味することから、対応する地域におけるサービスも複合ニーズに対応できる体制（医療・介護・福祉連携体制）強化が必須です。

さらに調査では国民の約6割が人生の最後を自宅で迎えたいとされています。

これらの国家的国民的命題に対し医療介護福祉政策面では2024年度からの医療・介護計画の改定等において、在宅医療の量と質の強化、医療と介護連携の強化策と併せて、地域包括ケアシステムのさらなる深化と推進策が検討されています。

これらに備えて済生会鹿児島地域福祉センターと済生会鹿児島病院では2018年4月に、両者の密な連携による切れ目のない医療・介護・福祉・生活支援サービス提供を可能とする済生会鹿児島地域包括ケアセンターを創設し、すでに地域包括ケアシステムの深化・推進（包摂共生社会の推進）に向けた取り組みを開始しています。

鹿児島病院は機能強化型在宅医療支援病院であるため、地域福祉センターの特養や認知症グループホームやサービス付き高齢者住宅等の入所・入居者様は必要に応じて介護・福祉・生活支援をうけつつ医療が必要な時は在宅という立場で病院からの医療（看取りまで）サービスを受けることが出来、利用者様方の安心に繋がっています。

済生会鹿児島地域包括ケアセンターでは機能をさらに深化させ、地域の皆様に貢献できますよう、随時、地域包括ケアセンター運営会議で両施設の連携運営上の各種課題を協議するほか、病院と地域福祉センターの職員は、互いに医療・介護・福祉・生活支援の理解と知識を深め、情報の共有と連携強化をめざし、連絡協議会や研修会等で学びあい連携課題に向き合い研鑽を積んでいます。

今号では病院や介護福祉センターの看護職員が、それぞれの場で、複合ニーズを有するご利用者様に寄り添い安心して生活いただけるように、医療介護福祉の連携強化を合言葉に頑張っている様子の一旦をご紹介します。

今後は両施設が機能的・組織的にさらなる一体化をすすめ、ご利用者や地域の皆様により喜ばれるサービスの量的質的深化に努めて参る所存です。

皆様には今年もご協力・ご支援を賜りますようどうかよろしくお願い申し上げます。

2024年 元旦

医療介護連携 包括ケアセンターで働く 各種職能スタッフの 役割とやりがい



『Style of Nurse』

ケアセンター（医療・介護の現場）で働く看護師さん数名にお話を伺いました。



	所 属	これまでの勤務経験
Aさん	特別養護老人ホーム	療養型病院・整形外科・グループホーム等
Bさん	デイサービス	療養型病院 特養・訪問入浴
Cさん	訪問看護	急性期、療養型病院、デイサービス・訪問入浴
Dさん	病院	急性期・一般病院



Q1. 皆さん、いつもどのようなお仕事をしていますか？

- Aさん** 施設に入居されている方々の身体的・精神的、医療的ケアをしています。
- Bさん** 事業所に通ってこられる利用者の健康管理です。バイタルのチェックや内服確認や投与、指示に伴う処置も行います。通常の身体介護、介助はもちろん入浴や排泄、移動、機能訓練やレクリエーションのサポートをしています。
- Cさん** 在宅に暮らされる利用者の医療的処置、保清、更衣、心のケア、内服のセットや確認などを行っています。利用者様それぞれの主治医、病院や関係機関との連携が必要です。
- Dさん** 訪問診療の担当をしています。患者さんが住み慣れた場所で健康的に長く生活できるよう援助することが大切だと思っています。対応する時間は短いですが、患者さんが生活するにあたって困ったことは無いか、変化はないか気づき、病状悪化時には速やかに対応できるように継ぐ役割だと思っています。

Q2. お仕事をされる中、医療現場と介護現場の違いをどのように感じていますか？

- Bさん** 医療現場は主治医の指示に基づいて処置を行い観察し症状の把握に努めていく事が中心になると思います。また、病院は「病気」「けが」等の疾病に応じた投薬や処置が実施される場所だと思います。生活の場へ戻すためにケアを行っています。
- Cさん** 介護現場は、生活を中心にその中で病気を予防する為のケアをご家族の心のケアも含めて行います。対象者の「日常」「生活」「生涯」にも目を向け、日常の健康管理と体調変化への気づきが必要です。

Q3. いつもご入居者やご利用者、患者様へどのような視点をもって接していますか？

- Aさん** その方が、「そのひとらしく」過ごして頂けるように、その方の性格や社会的背景、生活リズム、身体的リズムを把握できるように努めています。

- **Bさん** 日々の情報収集や状態の把握につとめ、利用される中で、小さなことでも変化に気づけるようにありたいと思っています。
- **Cさん** その方の尊厳を守りながら、機能低下を防ぎ、安心した話し相手になれるように努め接しています。
- **Dさん** 在宅は病院のような豊潤な医療器材がないため、患者さんの変化に気付いたり、情報を収集するために積極的なかわりが必要だと思っています。その状況の中で何が出来るのか、環境に応じたことを出来ればと思っています。

Q4.医療と介護の連携の中で気になる事がありますか。また、どのようなことが課題だと感じていますか？

- **Aさん** 介護の中でも医療の中でも、「連携」は難しいと感じています。そして、介護と医療の連携はそれ以上に困難なことだと思います。医療者としては主治医の指示に対しては、しっかり申し送りをしていく必要があります。介護現場では、緊急時に看護師がいない場面も多くあります。しっかりと出来る対応を考えておくことが必要だと思います。どの場面でもきちんとアセスメントを行い、報告や連絡を行う事が大事だと感じています。
- **Bさん** 緊急を要するときはすぐに医療に繋ぐことが出来ています。しかし、日常の変化の中で起きている小さな変化（例えばスキントラブルや認知面の変化）は様子を見る事が多く、すぐに医療へ繋ぐことが出来ない事が多々あります。それは、ご本人の生活や介護環境などが影響していると思います。医療へ繋ぐことが出来ない場面はもどかしく感じています。
- **Cさん** 医療介護の連携の場面では、互いにご利用者や患者さん尊重した情報交換が必要だと感じています。
- **Dさん** やはり患者様の情報共有が難しく感じます。また、その方との接点が少ない場合、ご家族の想いや状況が分からないので課題だと感じています。

Q5.最後に、看護師として働いている、「やりがい・楽しみ」をお聞かせください。

- **Aさん** 施設看護では、病院とは違う「看護の基本となるもの」の大切さを改めて考えさせられています。
- **Bさん** 通所事業所では、通って来られる利用者さんから「あなたの顔が見れてよかった」と言われる一言を楽しみに働いています。
- **Cさん** 訪問看護では・・・看護の仕事はやりがいのある仕事だと思います。自宅で楽しそうに安心して過ごされている姿を見ると、うれしく何気ない言葉で笑っている姿を見ると逆に頑張ろうと思います。どんな状況でも自宅を希望される方々が多いので、訪問看護はそこに携われる、特別な仕事だとも思っています。
- **Dさん** 病院では入院されて病人という感じだった患者様が、施設や自宅で元気に生活されている様子を見るととても嬉しいです。病院で会う時と在宅で会う時では表情や活気が違います。声をかけてもらうととてもうれしいです。

今回は、医療介護連携について、ケアセンターで働く看護師の皆さんの感じている課題とやりがいについてまとめました。

それぞれの現場で、看護師さんはご入居者やご利用者、患者様の尊厳を第一とし、そして最も身近にいる医療の専門職として業務に就いています。

チーム医療のキーパーソンとして、連携の場面では、いくつかの課題が見えていくようです。

しかし、「**看護を行う私たちは、人間とは何か、人はいかに生きるかをいつも問いただし、研鑽を積んでいく必要がある**」というナイチンゲールの名言にもあるように、多くの視点と人を敬い看るという使命の中で、後退するすることなく、看護師としての素晴らしいやりがいを感じながら、その力を発揮してもらえると感じました。



定例のご利用者満足度調査を実施しました

第15回 利用者満足度調査 集計結果

【実施対象者】福祉センターサービス利用者若しくはその家族

【実施期間】令和5年7月10日～令和5年8月31日

【回収方法】返送（返信用封筒にて）

ご利用（入居）者及びご家族の皆様へ

当センターが皆様に満足いただける福祉サービスを提供することを目的に実施した「第15回 利用者満足度調査」にご協力頂きありがとうございました。

お寄せいただいた貴重なご意見・ご要望につきましては、職員で共有し改善に向けて取り組んで参りますので、今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

済生会鹿児島地域福祉センター所長

1 調査基本情報

	人数
調査票配布数	634
調査票回収数	413
回収率	65.1%

2 利用者基本情報

	人数
男	132
女	264
無回答	17
合計	413

3 設問別 選択肢選択件数

【共通設問】

	①	②	③	④	⑤	無回答	合計
問1	1	0	69	51	297	1	413
問2	2	1	57	61	289	3	413
問3	3	1	54	62	293	0	413
問4	5	5	46	66	285	6	413
問5	4	2	55	64	282	6	413
問6	11	13	70	63	248	8	413
問7	2	3	55	58	284	11	413
問8	10	3	61	55	270	14	413
問9	11	12	63	64	248	15	413
小計	49	40	530	544	2,490	64	3,717

※①良くない ②やや良くない ③普通 ④ほぼ良い ⑤良い

4 評価（満足度）

【共通設問の評価】

※「共通設問の評価」の算出方法
については次のとおり

$(\text{④と⑤の合計}) \times 100$

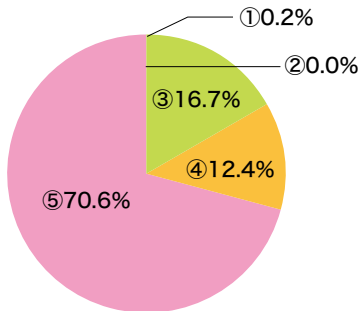
$(\text{合計} - \text{無回答数})$

83.1%

【第14回 利用者満足度調査 質問別結果】

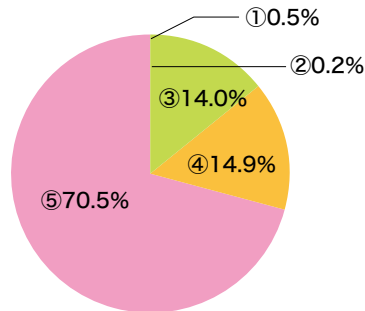
①良くない ②やや良くない ③普通 ④ほぼ良い ⑤良い

問1 職員の身だしなみは適切ですか？



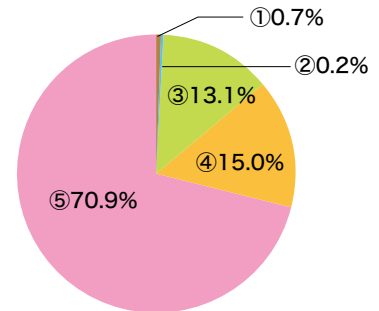
満足度 83.0% 不満足度 0.2%

問2 職員の言葉使いは適切ですか？



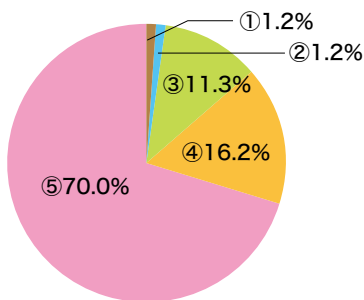
満足度 85.4% 不満足度 0.7%

問3 職員はご利用者及びご家族のプライバシーに配慮していますか？



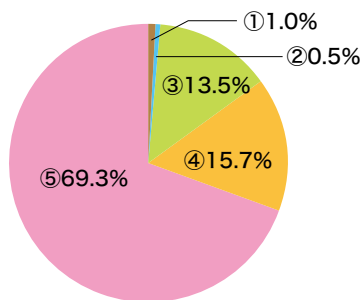
満足度 86.0% 不満足度 1.0%

問4 職員はご利用者及びご家族の考え方や意向を尊重し要望を丁寧に聞き、迅速・適切な対応をしてくれますか？



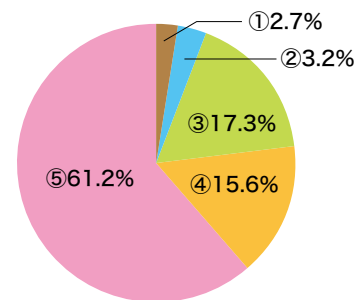
満足度 86.2% 不満足度 2.5%

問5 職員又は法人窓口はご利用者及びご家族の不満や要望を丁寧に聞き、迅速・適切な対応をしてくれますか？



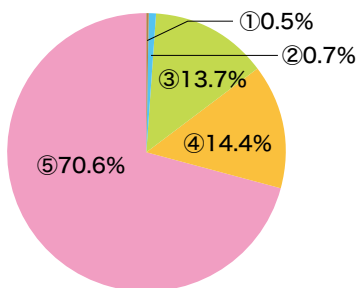
満足度 85.0% 不満足度 1.5%

問6 職員はお互いに連携が取れていて情報が良く伝わっていますか？



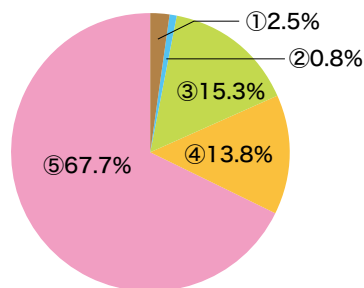
満足度 76.8% 不満足度 5.9%

問7 職員はご利用者の体調不良や怪我等などの事故が起きた時に適切な対応をしてくれますか？



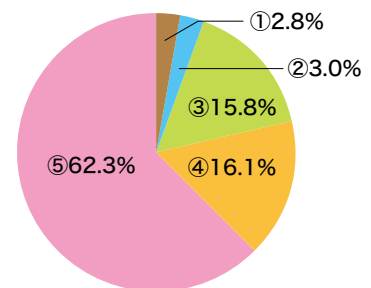
満足度 85.1% 不満足度 1.2%

問8 サービスの利用開始(入居)時に契約書やサービス内容について詳しく説明を受けましたか？



満足度 81.5% 不満足度 3.3%

問9 今利用している施設やサービスを友人や知人に紹介したいと思いますか？



満足度 78.4% 不満足度 5.8%

今回の調査で問6の【連携と情報共有に関する回答】では、不満足度が5.3%となりました。前年度の4.6%から0.7%比率が増加しており、細やかな連携・情報共有の必要性を感じております。問1.問2の【接遇に関する回答】では、「良くない」と言った回答もなく満足度も85%という結果となりました。今後もご利用者・ご家族の思いを大切に、真に安心したサービスをご利用いただけるよう、事業所・職員一同更なるサービス向上に努めて参ります。



令和5年度 輝く新入職員

プロフィール

氏 名…大毛 陸生
生年月日…平成3年7月24日
星 座…しし座
血液型…O型
座右の銘…挑戦



私はこれまで接客業を通して人と関わり、お客様とコミュニケーションを図りながら働くことにやりがいを感じていました。家族や友人から介護施設の仕事を聞く機会があり、より身近な距離で人と関わることの出来る職として魅力的だと思い、介護福祉士の資格を取得したいと考え専門学校へ入学しました。

これまでと大きく環境を変え、年齢差のある他の学生と学生生活を送ることに、はじめは大きな不安がありました。

しかし、同じ社会人経験のある学生や先生方に話を聞いてもらうなど周囲のサポートや、クラスメイト達の優しさに触れ馴染むことができたと思います。

社会人経験があるからこそ、勉強することの大切さと面白さを実感しながら学業に励むことが出来ました。

無事介護福祉士の資格を取得し、高喜苑へ入職しました。前職とは違う職種につき、年齢を重ねてからのスタートとなり人よりも努力し、早く仕事が出来るとならないと、という焦りや不安がありました。しかし、私が悩んでいると先輩方が誰も初めから出来ていた訳ではない為、焦る必要はない。等指導いただき、精神的にも安心することが出来ています。先輩方の利用者様へ大切にしていることや想いを聞くことにより、視野が広がり私、自身も一人前の介護職になれるようにと励みになります。利用者様主体の考えを念頭に入れ何が大切かを考え行動していきたいです。

仕事の中でやりがいを感じていることは、利用者様の「ありがとう」という声や表情が和らぐ姿を見ると日々の忙しい業務での焦りや疲れが取れていきます。また、入職当時は移乗介助も1人では出来なかったですが、最近では夜勤にも入るようになり、出来なかったことができるようになる事はモチベーションの向上に繋がっています。

私は今まで様々な人に助けられてきました。その恩を忘れることなく、私自身もその想いを繋いでいける存在になれるように日々努力していきます。



大毛さんはどんな人?と利用者様に尋ねると、「優しいお兄ちゃん!」「顔も優しいし」「いつも笑顔で話してくれる」などの答えがありました。

**大毛君は、利用者様からは「優しいお兄ちゃん」
職員からは、「癒しキャラ」笑顔の似合う職員です。**

武岡秋まつりに参加して

▶ 武岡台デイサービス

令和5年11月23日(木)勤労感謝の日、晴れた空の下、近隣の住宅地で武岡秋祭りが開催されました。実に4年ぶりの開催との事でした。

歩行者天国になった道路には、いろんな店が出店し、大変にぎわっていました。そんな中に、センターのブースも出させてもらいました。

今回は、「身体と心を整えましょう」というテーマを掲げ、介護予防等の体操などを通し、来場された皆さまと、少しでも関わることができて、何かお役に立てることがあればいいなと考えていました。

ブースを覗いてくれた方々へは「似顔絵」の提供やカードセラピーも行いました。どんな方々が来て下さるのかな?不安や心配、ドキドキ感の中、最初にブースを覗いてくれたのは、小さな女の子とお母さん達でした。その女の子は絵が好きで、私が似顔絵を描いている間、「私も先生を描く」と言い、私を描いてくれるました。私たちのブースの近くでは、ふうせん動物を作ったり、スピーカーからは流行りの音楽が聞こえてきたりの環境で、子供も私も十分に集中できるとはいえない状況の中でした。しかし「どのように鉛筆で表現しようか?」「陰影や色付けはどうする?」など声かけや話題、会話について頭の中で考えながら、手を動かし似顔絵を完成することが出来ました。

これは、より良い支援を行うために、どのように声かけをするか?や、様々な視点からの観察など、介護の展開にも似たような部分があるように感じました。

今回の祭りに参加させて頂き、お父さんやお母さんと一緒に来場している親子連れの家族や、運営に協力している企業さん、手品の演者さん、出店の方たち、地域密着の施設の職員や利用者さん達等…いろんな人達が、関わり、協力しあって、支え合っている地域であることを感じました。また、私自身も「自分が置かれた場所でどのような関わりをしたら、みんなが笑顔になれるか?」を、考えるきっかけが得られた、素敵な一日となりました。



小学校での出張授業

▶ ホームヘルプステーション高喜苑

令和5年10月に、県社会福祉協議会からの依頼を受け「未来の福祉・介護の担い手スタートアップ事業」に参加させて頂きました。福祉の現場で働く職員が小学校を訪問し講話を行う事で「福祉・介護の現場に興味をもってもらう」という事業の内容でした。今回は鹿児島市玉江小学校の4年生の子どもたちに「高齢者の特徴」「高齢者の施設や住宅について」「介護の仕事」などの話を写真やスライドを交えて行いました。特別養護老人ホームでの花見やお祭り、体操、運動会での玉入れ等の行事、サービス付き高齢者住宅での活動などの写真を紹介しました。また、認知症についても簡単な説明をすると「僕のおばあちゃんも認知症だよ」といった声もあり、エピソードを交えて話しをしてくれる子どもさんもありました。

最後に、小学生の皆さんが不自由を感じるお年寄りの為に何ができるか一緒に考えてもらいました。「お年寄りって膝がいたくなるの？重たい荷物をもってあげる」「横断歩道を手をつないで歩く」「お話しするときは目の前から元気に話をする」等様々な意見を元気に発表してくれました。

子どもたちが真剣に話を聞き、積極的に意見する授業風景を見て福祉・介護に興味をもってもらう事はもちろんの事、日常生活の中でも高齢者と接する場面で変化が生まれるのではと思いました。



特別養護老人ホームでの正月料理

▶ 特別養護老人ホーム高喜苑

お正月の楽しみの一つといえば、おせち料理ではないでしょうか。

日本では、お正月は家族みなでおせちを食べるという習慣が古くからあります。

しかし、年齢を重ねると健康状態も変化し、噛む力「咀嚼力」や飲み込む力「嚥下力」も低下し始めてきます。

それでも、楽しめるおせち料理をという願いを込めて高喜苑調理スタッフ一同、調理させていただいています。

高喜苑では日頃から利用者様の咀嚼力・嚥下力に合わせて5種類の食事形態で提供し、それぞれの利用者様に美味しく食べられるようにと調理しています。

おせち料理も元旦の黒豆・数の子などに始まり提供できる縁起の良い食材を3日間かけ調理していきます。

量が多いのでは・・・?と思うこともありますが、ほとんどの方が、完食されます。

食事をしながら、「おいしいね。」「全部完食でした。」「また、作ってね。」などの言葉をいただくと、私たち調理スタッフも次は、もっと美味しい物をという思いが生まれます。

本年も、利用者様に喜んでいただける美味しく・安全な食事作りに精進して参りたいと思います。

武岡台小学校校区文化祭に参加して

🎯 シルバーフラット武岡台

令和5年11月19日に開催された武岡台小学校校区文化祭へ、入居者様の作品を展示させて頂きました。コロナ禍の影響によりここ数年は、参加の自粛をしていましたが、今回数年ぶりの参加となりました。

ケアハウスの入居者様に出品作品の募集を行うと、多数の入居者様より作品を提供して頂きました。展示作品にはさまざまな物があり、ケアハウスに入居されてから個人でコツコツと作られていた作品、複数名で自主的に行われている手芸倶楽部などで作成された作品、施設に入居される前に描かれた絵画、手作りのリュックサックやトートバッグなど、どの作品も完成度が高いものでした。本来であれば、入居者様と一緒に文化祭の見学も行いたいところでしたが、多数の見学者が来場されることが予想されたため、作品のみを出展させて頂きました。

校区文化祭に出展させて頂いた作品はごく一部でしかありません。ケアハウスの日々の生活の中で思い思いの趣味活動を見つけ、色々な作品を作られている入居者様がいらっしゃいます。以前ケアハウス内でも、作品展示会を企画したことがあります。他の入居者様が作られた作品を見てとても喜ばれる姿があり、いい刺激にもなっていました。

今回のように、入居者様自身も地域の活動や催し物などに参加することができれば生活意欲の向上にもつながり、より一層楽しみのある施設生活を過ごす事ができるものと感じます。コロナ禍による制限も緩和され、できることも少しずつ増えてきています。まだ少し自由とは言えない現状もありますが、少しでも早く、制限を感じる事の無い日常が戻ってくればと思います。



〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

特別養護老人ホーム 高喜苑

〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8253 **FAX** 099-284-8252

シルバーフラット武岡台

〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6870 **FAX** 099-283-6871

済生会なでしこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-202-0710 **FAX** 099-283-6876

指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4737 **FAX** 099-283-4733

グループホーム武岡5丁目

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目16番23号

TEL 099-282-6081 **FAX** 099-283-3533

グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-7231 **FAX** 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター

〔指定通所介護・予防型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

済生会ヘルスサポートセンター武岡

〔ミニデイ型通所介護・運動型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

なでしこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-281-9292 **FAX** 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑

〔指定訪問介護・予防型訪問介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ

〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

鹿児島県済生会

〒895-0074 鹿児島県薩摩川内市原田町2番46号

TEL 0996-23-5221 **FAX** 0996-23-9797

編集 後記

今回は医療介護連携を課題とした、看護師さんの意見を掲載させて頂きました。
看護師さんの仕事のやりがいや、素晴らしいなあ!と思いました。
また、「連携」って、どのような場面でもとても大切でとても重要、そして難しいことですね。
頑張ろう!!